

## 1. 略歴

1994年3月	お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業
1994年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程入学
1997年3月	同 修了
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程進学
2000年3月	同 修了
2000年3月	博士(文学)学位取得(東京大学)
2000年4月	椋山女学園大学人間関係学部専任講師
2003年4月	椋山女学園大学人間関係学部助教授
2007年4月	日本大学文理学部准教授
2013年4月	日本大学文理学部教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

日本近世文学

### b 研究課題

近世後期～明治前期の戯作と芸能を多角的に分析し、表現の基底にある価値観や知識を明らかにするとともに、近世の娯楽文化をめぐる諸事象と現代文化との連続性を考察する。

### c 主要業績

#### (1) 著書

佐藤至子、『江戸の絵入小説——合巻の世界——』、ぺりかん社、2001年11月、321p.

佐藤至子、『山東京伝——滑稽洒落第一の作者——』、ミネルヴァ書房、2009年4月、325p.

佐藤至子、『妖術使いの物語』、国書刊行会、2009年9月、337p.

佐藤至子、『江戸の出版統制——弾圧に翻弄された戯作者たち——』、吉川弘文館、2017年11月、232p.

#### (2) 編著・共著

佐藤至子編・校訂・解題、『白縫譚』上・中・下、国書刊行会、2006年5月、上789p.、中758p.、下710p.

倉田喜弘他編、横山泰子・佐藤至子・長崎靖子校注、『円朝全集 第六巻』、岩波書店、2013年10月、497p. 担当部分：「緑林門松竹」pp.103-288、「注解(緑林門松竹)」pp.444-455、「後記(緑林門松竹)」pp.479-488

倉田喜弘他編、佐々木亨・佐藤至子・山田俊治校注、『円朝全集 第七巻』、岩波書店、2014年1月、403p. 担当部分：「文七元結」pp.295-319、「注解(文七元結)」pp.363-364、「後記(文七元結)」pp.384-400

倉田喜弘他編、延広真治・佐藤至子校注、『円朝全集 第九巻』、岩波書店、2014年6月、490p. 担当部分：「雨夜の引窓」pp.75-112、「菊模様皿山奇談」pp.113-417、「注解(雨夜の引窓)」pp.434-436、「注解(菊模様皿山奇談)」pp.437-452、「後記(雨夜の引窓)」pp.468-474、「後記(菊模様皿山奇談)」pp.475-490

倉田喜弘他編、中丸宣明・小二田誠二・山本和明・佐藤至子校注、『円朝全集 第十一巻』、岩波書店、2014年11月、525p. 担当部分：「離魂病 一名 因果塚の由来」pp.343-425、「注解(離魂病 一名 因果塚の由来)」pp.470-476、「後記(離魂病 一名 因果塚の由来)」pp.518-525

倉田喜弘他編、今岡謙太郎・延広真治・山本和明・佐藤かつら・横山泰子・佐藤至子校注、『円朝全集 第十二巻』、岩波書店、2015年2月、482p. 担当部分：「心中時雨傘」pp.329-363、「注解(心中時雨傘)」pp.424-431、「後記(心中時雨傘)」pp.479-482

浅井清・市古夏生監修、作家の原稿料刊行会編著、『作家の原稿料』、八木書店、2015年2月、449p. 担当部分：論考篇「戯作と報酬」pp.8-19

倉田喜弘他編、佐藤至子校注、『円朝全集 第十三巻』、岩波書店、2015年6月、486p.

高田衛監修、服部仁・佐藤至子編・校訂、『児雷也豪傑譚』上・下、国書刊行会、2015年7月、上679p.、下641p.

倉田喜弘他編、佐藤至子・佐々木亨・山本和明・延広真治・清水康行・佐藤かつら・磯部敦・吉田弥生・倉田喜弘校注、『円朝全集 別巻二』、岩波書店、2016年6月、924p. 担当部分：「菊文様皿山奇談」pp.3-88、「後記（解題）菊文様皿山奇談」p.825

佐藤至子編、『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 雨月物語』、KADOKAWA、2017年12月、204p.

### (3) 論文

佐藤至子、「草双紙の物語性と文体」、『国語と国文学』第74巻第9号（東京大学国語国文学会）、1997年9月、pp.38-55

佐藤至子、「読み物としての合巻——三馬合巻の文体——」、『近世文芸』第68号（日本近世文学会）、1998年6月、pp.63-75

佐藤至子、「後期戯作の会話文」、『読本研究新集』第1集（読本研究の会）、翰林書房、1998年11月、pp.72-90

佐藤至子、「合巻における絵と物語」、『国語と国文学』第76巻第2号、1999年2月、pp.25-38

佐藤至子、「合巻における舞台の表現——種彦合巻を中心に——」、『国語国文』第68巻第3号（京都大学文学部国語学国文学研究室）、1999年3月、pp.22-38

佐藤至子、「明治期草双紙における『正本製』の系譜」、『江戸文学』第21号、ペリかん社、1999年12月、pp.82-95

佐藤至子、「化政期合巻の書入」、『日本文学』第48巻第12号（日本文学協会）、1999年12月、pp.29-38

佐藤至子、「墨川亭雪麿の活動」、延広真治編『江戸の文事』、ペリかん社、2000年4月、pp.214-234

佐藤至子、「趣向としての当世風景——文政期合巻の一面——」、『国語と国文学』第77巻第7号、2000年7月、pp.29-40

佐藤至子、「『読本仕立敵討闇夜烏』をめぐって」、『読本研究新集』第2集、2000年6月、pp.193-208

佐藤至子、「忠孝と真情——文化期草双紙の遊女像——」、『日本文学』第49巻第10号、2000年10月、pp.27-35

佐藤至子、「試練としての異界遍歴」、『日本文学』第50巻第10号、2001年10月、pp.57-65

佐藤至子、「探偵になるということ——『D坂の殺人事件』『心理試験』『屋根裏の散歩者』覚え書——」、『人間関係学研究』人間関係学部改組発足・人間関係学研究科創設二周年記念号（相山女学園大学）、2002年3月、pp.123-130

佐藤至子、「合巻における当世性の問題——文政期合巻の芸者像——」、『文学』隔月刊第3巻第3号、岩波書店、2002年5月、pp.91-102

佐藤至子、「幕末期合巻における『江戸』」、『近世文芸』第77号、2003年1月、pp.1-14

佐藤至子、「遊女へのまなざし——玉菊伝説とその背景——」、『国語と国文学』第80巻9号、2003年9月、pp.40-53

佐藤至子、「本所・深川」、『国文学解釈と鑑賞』第68巻12号、至文堂、2003年12月、pp.121-126

佐藤至子、「『白縫譚』と『椿説弓張月』——若菜姫の造型をめぐって——」、『文学』隔月刊第5巻第3号、2004年5月、pp.100-110

佐藤至子、「『白縫譚』の改版本」、『相山国文学』第29号（相山女学園大学国文学会）、2005年3月、pp.17-31

佐藤至子、「合巻の物語性——『白縫譚』の悲劇的挿話をめぐって——」、『国文学 解釈と教材の研究』第50巻第6号、学燈社、2005年6月、pp.116-123

佐藤至子、「一九世紀の歌舞伎と戯作にみる両国橋周辺」、吉田伸之・長島弘明・伊藤毅編『江戸の広場』、東京大学出版会、2005年7月、pp.103-114

佐藤至子、「性と情の楽しみ——洒落本に見る遊興観——」、『国文学解釈と鑑賞』第70巻8号、2005年8月、pp.105-112

佐藤至子、「『白縫譚』の土蜘蛛について」、『国語と国文学』第83巻第5号、2006年5月、pp.29-38

佐藤至子、「末期の長編合巻」、『江戸文学』第35号、2006年11月、pp.127-139

佐藤至子、「合巻における『江戸生艶気権嬭』の享受——登場人物の利用をめぐって——」、『近世文芸』第85号、2007年1月、pp.61-73

佐藤至子、「合巻『吉臯染扶桑初鷄』について」、『国語と国文学』第85巻2号、2008年2月、pp.13-26

佐藤至子、「『雪梅芳譚犬の草紙』と『仮名読八犬伝』、諏訪春雄・高田衛編著『復興する八犬伝』、勉誠出版、2008年2月、pp.393-420

佐藤至子、「幕末の長編合巻における主人公と妖術」、『語文』第130輯（日本大学国語国文学会）、2008年3月、pp.30-43

佐藤至子、「山東京伝の合巻『気替而戯作問答』について——京山による追善作の可能性——」、『語文』第132輯、2008年12月、pp.19-33

佐藤至子、「戯作と報酬」、『江戸文学』第42号、2010年5月、pp.74-85

佐藤至子、「京伝合巻における音曲の引用——書体の工夫と挿絵——」、『国文学解釈と鑑賞』第75巻8号、2010年8月、pp.63-71

佐藤至子、「残虐から幻妖へ——合巻に描かれた怪異——」、小松和彦編『妖怪文化の伝統と創造——絵巻・草子からマンガ・ラノベまで』せりか書房、2010年9月、pp.172-187

佐藤至子、「山東京伝『双蝶記』考——発句に導かれた読解——」、『文学』隔月刊第12巻第1号、2011年1月、pp.188-202

佐藤至子、「曲亭馬琴『敵討二人長兵衛』考」、『朱』第54号（伏見稲荷大社）、2011年3月、pp.131-142

- 佐藤至子、「昔の芝居を今見るごとし——柳亭種彦の合巻における歌舞伎の再現——」、『西鶴と浮世草子研究』第5号、笠間書院、2011年6月、pp.179-194
- 佐藤至子、「『児雷也豪傑譚』の蝦蟇」、鈴木健一編『鳥獣虫魚の文学史——日本古典の自然観3 虫の巻』、三弥井書店、2012年1月、pp.355-372
- 佐藤至子、「異国遍歴、神隠し、妖術使い——江戸文学の飛行譚——」、一柳廣孝・吉田司雄編著『ナイトメア叢書8 天空のミステリー』、青弓社、2012年1月、pp.34-45
- 佐藤至子、「江戸後期戯作の検閲」、鈴木登美・十重田裕一・堀ひかり・宗像和重編『検閲・メディア・文学——江戸から戦後まで』、新曜社、2012年3月、pp.38-46
- 佐藤至子、「円朝と類型」、『文学』隔月刊第14巻第2号、2013年3月、pp.30-42
- 佐藤至子、「『児雷也豪傑譚』における蛇の物語」、『日本文学』第62巻第4号、2013年4月、pp.53-62
- 佐藤至子、「『怪談牡丹燈籠』の文体」、『国語と国文学』第90巻第11号、2013年11月、pp.25-36
- 佐藤至子、「『児雷也豪傑譚』から『NARUTO』へ」、吉丸雄哉・山田雄司・尾西康充編著『忍者文芸研究読本』、笠間書院、2014年4月、pp.59-70
- 佐藤至子、「二人の男の「復讐」と「奇談」——山東京伝『安積沼』、井上泰至・田中康二編『江戸文学を選び直す——現代語訳付き名文案内』、笠間書院、2014年6月、pp.162-177
- 佐藤至子、「円朝の癖における夢と怪談」、『文学』隔月刊第15巻4号、2014年7月、pp.71-82
- 佐藤至子、「京伝と九相詩」、『文学』隔月刊第17巻4号、2016年7月、pp.22-38
- 佐藤至子、「落語における夢」、荒木浩編『夢と表象——眠りところの比較文化史』勉誠出版、2017年1月、pp.491-507
- 佐藤至子、「忍者と動物——『NARUTO——ナルト』と〈日本らしさ〉——」、吉丸雄哉・山田雄司編『忍者の誕生』、勉誠出版、2017年3月、pp.205-219。

#### (4) 書評・学界展望ほか

- 佐藤至子、「『御贄美少年始』覚え書」、『叢書江戸文庫第47巻月報』、国書刊行会、2001年2月、pp.1-4
- 佐藤至子、「源内への視線」、『江戸文学』第24号、2001年11月、pp.127-131
- 佐藤至子、「明治出版雑誌・第一回 正本製と正本写——読み物化された歌舞伎——」、『新日本古典文学大系明治編第8巻月報2』、岩波書店、2001年11月、pp.12-15
- 佐藤至子、「合巻に見る幫間」、『日本古典文学会々報』第134号、日本古典文学会、2002年7月、p.3
- 佐藤至子、「津田真弓著『山東京山年譜稿』」、『国語と国文学』第82巻第6号、2005年5月、pp.61-64
- 佐藤至子、「『霜夜鐘十字辻筮』解題」、『リプリント日本近代文学7 霜夜鐘十字辻筮』（人間文化研究機構国文学研究資料館）、平凡社、2005年9月、pp.163-165
- 佐藤至子、「『霜夜鐘十時の辻占』解題」、『リプリント日本近代文学8 霜夜鐘十時の辻占』（人間文化研究機構国文学研究資料館）平凡社、2005年9月、pp.133-134
- 佐藤至子、「『神経開化怪談』解題」、『リプリント日本近代文学11 神経開化怪談』（人間文化研究機構国文学研究資料館）平凡社、2005年9月、pp.339-340
- 佐藤至子、「『霜夜鐘十時辻筮』解題」、『リプリント日本近代文学50 霜夜鐘十時辻筮』（人間文化研究機構国文学研究資料館）平凡社、2006年4月、pp.343-345
- 佐藤至子、「草双紙・合巻」、『日本語日本文学の新たな視座』、おうふう、2006年6月、pp.345-353
- 佐藤至子、「明治出版雑誌・第二十三回 『白縫譚』の価格」、『新日本古典文学大系明治編第13巻月報24』、岩波書店、2007年3月、pp.9-12
- 佐藤至子、「佐々木亨著『明治戯作の研究——草双紙を中心として——』」、『日本文学』第59巻第4号、2010年4月、pp.76-77
- 佐藤至子、「解説」、アダム・カバット著『江戸滑稽化物尽くし』（講談社学術文庫）、講談社、2011年8月、pp.261-266
- 佐藤至子、「天明吉原気質——山東京伝『会通己恍惚照子』で読み解く通、野暮、半可通——」「吉原大通会——身分をこえて吉原に集った狂歌師たち——」、『図説 吉原の本』（洋泉社MOOK）、洋泉社、2012年11月、pp.72-82、pp.83-87
- 佐藤至子、「頼豪鼠と西行猫」、『国立劇場第283回歌舞伎公演解説書』、独立行政法人日本芸術文化振興会、2013年1月、pp.24-25
- 佐藤至子、第12章「仮名草子」・第13章「浮世草子・前期読本」・第14章「後期読本・合巻・人情本」、島内裕子編著『日本の物語文学』、放送大学教育振興会、2013年3月、pp.147-185
- 佐藤至子、「名物の産地にみる江戸の広がり——黄表紙『桂土自慢名産杖』の分析から——」、『語文』第145輯、2013年3月、pp.115-120

- 佐藤至子、「大久保純一著『浮世絵出版論 大量生産・消費される〈美術〉』、『図書新聞』3120号、2013年7月27日
- 佐藤至子、「『長髯姿蛇柳』と雷の場面」、『山東京伝全集月報第10巻（第14回）』、ペリかん社、2014年2月 pp.1-4
- 佐藤至子、「物語のなかの妖術使い」、『江戸妖怪大図鑑』、太田記念美術館、2014年7月、pp.194-198
- 佐藤至子、「江戸文学と話芸——解説と口演鑑賞記——」、『近世文芸』第101号、2015年1月、pp.83-85
- 佐藤至子、「解題」、『日本文学全集 好色一代男／雨月物語／通言総籬／春色梅児誉美』、河出書房新社、2015年12月、pp.509-517
- 佐藤至子、「合巻『白縫譚』について」、『国立劇場第302 回歌舞伎公演解説書』、独立行政法人日本芸術文化振興会、2017年1月、pp.22-23
- 佐藤至子、「物語を読む・作る——古典と二次創作——」、日本大学文理学部編『知のスクランブル——文理的思考の挑戦』（ちくま新書）、筑摩書房、2017年2月、pp.47-60
- 佐藤至子、第8章『『金々先生栄花夢』を読む』・第9章『『桜姫全伝曙草紙』を読む』・第10章『『白縫譚』を読む』・第11章『『怪談牡丹燈籠』を読む』、島内裕子編著『日本文学の名作を読む』、放送大学教育振興会、2017年3月、pp.111-171
- 佐藤至子、「〈研究へのいざない〉落語における〈言葉を話す動物〉の表象」、『語文』第160輯、2018年3月、pp.41-47

### (5) 学会発表

- 佐藤至子、「三馬合巻の文体」、日本近世文学会秋季大会、1997年11月、天理大学
- 佐藤至子、「墨川亭雪麿と戯作」、全国大学国語国文学会、2000年10月、甲南女子大学
- 佐藤至子、「魯文と仙果の江戸——幕末合巻の都市風景——」、日本近世文学会秋季大会、2001年11月、立命館大学
- 佐藤至子、「シンポジウム 視覚化する言葉」、東京大学国語国文学会、2004年11月、東京大学
- 佐藤至子、「仇気屋艶二郎の変容」、日本近世文学会秋季大会、2004年11月、同志社大学
- 佐藤至子、「『白縫譚』と『白雪美談時代加賀見』」、日本大学国文学会大会、2007年7月、日本大学文理学部
- 佐藤至子、「忍者と動物——『NARUTO』はどこから来たか——」、中国社会科学院日本研究所国際シンポジウム『忍者』からみた中国と日本と韓国——その交流の歴史と未来——、2014年9月、中国社会科学院日本研究所
- 佐藤至子、「落語における夢」、国際日本文化研究センター国際シンポジウム「夢と表象」、2015年3月、国際日本文化研究センター
- 木越俊介・今岡謙太郎・佐藤至子・加藤敦子・板坂耀子、「世話・人情話・メロドラマ」、日本近世文学会秋季大会ラウンドテーブル、2016年11月、信州大学
- 佐藤至子、「合巻の表現規制と『茶釜前杓子物語』」、日本近世文学会春季大会、2017年6月、東京女子大学

### (6) 講演

- 佐藤至子、「物語のなかの妖術使い」、太田記念美術館江戸文化講座「江戸の妖怪画」第2講、2014年7月、太田記念美術館

### (7) 受賞

- 2001年6月 第27回日本古典文学会賞（財団法人日本古典文学会）
- 2018年3月 第2回小泉郁子賞（お茶の水女子大学）

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

椋山女学園大学人間関係学部、お茶の水女子大学文教育学部、青山学院大学文学部・同大学院文学研究科、早稲田大学大学院文学研究科、名古屋大学大学院人文学研究科

### (2) 学会活動等

- 日本近世文学会編集委員（2012年6月～2014年5月）
- 日本近世文学会広報企画委員（2013年6月～2018年5月）
- 日本近世文学会事務局（2014年6月～2016年5月）
- 日本近世文学会常任委員（2014年6月～）
- 日本近世文学会日本語の歴史的典籍プロジェクト連携委員（2017年6月～）
- 日本文学協会運営委員（2008年12月～2011年11月）
- 印刷博物館印刷文化学検討委員会委員（2016年9月～）